



目次

- ◆ブロックからのお知らせ 1
 - 第26回日本野鳥の会中国・四国ブロック会議（オンライン）議事録 1
- ◆事務局からのお知らせなど 9

- チュウヒサミット 2024 開催のお知らせ 9
- 会員数 9

◆ブロックからのお知らせ

■第26回日本野鳥の会中国・四国ブロック会議（オンライン）議事録

- 日 時：令和6年(2024年)8月18日(日)
13:30~17:00(第一部)、17:10~18:25(第二部)
- 場 所：(Zoomによるリモート会議)
- 参加者：徳島県支部 東條支部長、他5名
高知支部 西村支部長
島根県支部 川上支部長
広島県支部 茶村支部長、他2名
香川県支部 大川事務局長、他2名
鳥取県支部 吉田支部長、他5名
愛媛 松田代表、他3名
岡山県支部 丸山支部長、他5名
- ★山口県支部 原田支部長、事務局長 白石 [記]、他5名 [★：主催支部]
財団本部 遠藤理事長、葉山常務理事
財団事務局 普及室 富岡室長、箱田室長代理、江面チーフ、井上氏、深澤氏、総務室 森チーフ
以上45名(第一部)、19名(第二部)
- 目 的：新型コロナがら類感染症に移行したものの終息する見込みがなく、ブロック交流会をブロック会議オンラインで開催するもの。各支部間および財団本部と課題や解決策、ノウハウなどを情報共有する。
議題は以下の通り。
第一部
(1)各支部からの活動報告
(2)財団事務局からの報告
(3)検討テーマについて各支部から状況報告
(4)次回ブロック交流会(会議)について
第二部
(5)フリートーク

●内 容：

(1) 開会宣言・挨拶 [山口県] 原田支部長 ※議事進行を担当

(2)各支部からの活動報告(主なもの)

◎徳島県支部 [徳島県] 高井普及編集部長]

- ・総会員数は2000年頃をピークとして約500名。最近では351名(2024/4)まで減少してきている。
- ・探鳥会後の工夫として、コロナ前はカフェ等で、コロナ後はオープンカフェで友達づくりをさせていただいている。
- ・支部報について、2024/8より財団へPDF版を送付するようにしたので、ご覧いただきたい。
- ・ホームページをリニューアルしており、間もなく公開の予定。
- ・野鳥展を開催して一般参加も募っており、写真撮影マナーの普及に役立っている。

→ アフターバードウォッチングの参加者は？ [岡山県] 古田幹事]

→ 盛況で半数以上の方が参加。支部からは無料で飲み物やお菓子が支給される。[徳島県] 高井普及編集部長]

→ 会員特典の「イベントでの無料出展」とは？ [普及室] 江面チーフ]

→ 野鳥展に出展する際に、展示枚数により一般の方からは¥500~1,000/枚を徴収するが会員は無料。展示枚数が多いと支部に入会した方がお徳感を出している。[徳島県] 高井普及編集部長]

→ 探鳥会に係る経費(入園料や駐車場代等)について支部が負担しているのか、探鳥会リーダーが自己負担しているのかについて、以降発表される各支部にお尋ねしたい。[徳島県] 東條支部長]

◎高知支部 [高知] 西村支部長]

- ・探鳥会リーダーの報酬として¥1,000/市内開催分、¥2,000/市外開催分を支給している。ガソリン代等。
- ・フッポウソウの巣箱について9箱/23箱(2024/6下)が利用されている。架設している23箱は全てリニューアル済み。
- ・昨冬の鳥インフルエンザは県内で2例確認。落鳥

した野鳥からの高病原性ウイルス検出。県からの要請で定点調査を実施したが問題なし。

- カワウ管理指針について、今年度に県が指針を策定する。来年度からの5年間について県内の現状把握や対応方針が決定される見込みであり支部も関わっている。

→ ブッポウソウが繁殖している場所は県の西側に寄っているのか？ [徳島県) 三宅共存部長]

→ 支部が巣箱を架けているのは四万十川の沿線であり、徳島県側ではなくてどちらかと言うと愛媛県側。 [高知) 西村支部長]

◎島根県支部 [島根県) 川上支部長]

- 2019 年から初心者探鳥会を 14 回/年継続開催。初心者と銘打つことでハードルが下がっているのか参加人数がほぼ 20 名以上と多い。
- 会員数は 203 名(2023/6)をピークとして、現状 195 名付近。新規会員増のみならず既会員の定着にも目を向けていく必要あり。
- 探鳥会の初参加は殆どいなくなり、お試し会員の申込みも 2023 年度は2件のみ、と工夫が必要な状況。
- 探鳥会の参加費無料が支部の特徴であり、この点を積極的に PR して会員の定着と新規入会へ誘導していく。
- 支部報の配送について、クロネコ DM 廃止に伴って JP ゆうメール特約に変更したものの郵送料が高騰。については支部会費の値上げを継続検討する。
- 農地(私有地)に勝手に入って野鳥撮影することについて苦情あり。支部報に撮影マナーについて掲載。
- 島根県鳥類目録 2019 の編集を継続中。日本鳥類目録第8版改訂にあわせて今年度作成の予定。
- 役員からの要望であるが、ブロック交流会はやはり原則対面で開催して欲しい。

→ 松江城山定例探鳥会と出雲大社定例探鳥会の駐車場は有料かと思うが誰が負担しているのか？ [徳島県) 東條支部長]

→ 両方とも駐車場代は無料。今後、有料駐車場が出てくれば検討が必要と感じた。 [島根県) 川上支部長]

◎広島県支部 [広島県) 茶村支部長]

- 2023 年度総会を開催。財団本部の上田会長をお招きし「生物多様性を守るとはどういうことか」をテーマに講演していただいた。
- 支部体制の中に鳥類保護グループを新たに立ち上げた。コアジサシ、タマシギ、ヤマセミ等の生息状況の把握や RDB の見直し、鳥類繁殖調査と基礎資料作り、風力発電対応等々について活動していく。
- 県の事業としてカワウ調査を実施している。12 月と3月、7月の3回/年。
- 支部として事務所を構えており、野鳥図書館を兼ねている。図書館には土日担当者が常駐しており、一般の方の閲覧や購入も可能。
- 1 回/月は役員の連絡会を開催しており、情報連

携を深めている。

- 「広島県鳥類目録 2023」を出版した。

→ 鳥類保護グループの体制は？ [山口県) 原田支部長]

→ 6 名体制で中心となるのは2名。 [広島県) 茶村支部長]

→ 野鳥図書館は常設なのか臨時なのか？ [島根県) 川上支部長]

→ 支部事務所に常設している。 [広島県) 日比野幹事]

→ 事務所はどのような場所で賃貸か？ [愛媛) 秋山事務局長]

→ JR 広島駅から西側へ2駅の街中。支部は財政面で恵まれており賃貸料を支払っている。 [広島県) 日比野幹事]

→ 会員数は何名か？ [鳥取県) 田中副支部長]

→ 500 名前後。 [広島県) 茶村支部長]

→ 八幡川河口で行政と観察所を建てるように検討していると聞いたが進捗状況は？ [山口県) 原田支部長]

→ 埋立地の利用について、野鳥園は確保されているものの地盤沈下が続いており建物については 10 年程度はかかる見込み。 [広島県) 茶村支部長]

→ 探鳥会の支部の費用負担についてお尋ねしたい。 [徳島県) 東條支部長]

→ 支部は一切負担していない。 [広島県) 茶村支部長]

◎香川県支部 [香川県) 大川事務局長]

- 探鳥会リーダーの報酬として¥1,000 支払っている。
- 写真展について環境省のビジターセンターで2回/年実施している。
- 支部ホームページについては Microsoft Edge と Google Chrome から閲覧できず対応に苦戦している。
- コアジサシ、ブッポウソウの保護については県の対応を含めてなかなか進んでいない。
- ブッポウソウの巣箱について2年前から交渉しているが NTT は電柱を貸してくれない状況。

→ 探鳥会リーダーへの報酬についてはサブリーダーにも支払われているのか？ [島根県) 川上支部長]

→ リーダー1名のみ支給している。 [香川県) 大川事務局長]

→ 県の動きが良くないことについては何か明確な理由があるのか？ [山口県) 原田支部長]

→ 県職員の中では、なかなか積極的に新しいことにチャレンジしようという風土がないようだ。 [香川県) 大川事務局長]

◎鳥取県支部 [鳥取県) 吉田支部長]

- 会員数 238 名(2024/7)ここ数年は横這い状態。
- バリアフリー探鳥会は1回/年開催。
- 支部からは特に探鳥会リーダーへは支給しておらず、有料施設については参加者同様に自己負担。
- ブッポウソウの巣箱は 54/67 個が利用されてお

- り、ヒナは 89 / 推定 197 羽について標識を付けた。
- ・ブッポウソウの巣箱を東部、中部、西部に架けたが、東部の巣箱は今まで利用実績がない。
- ・カメラマンによるものと思われる営巣放棄でヒナが餓死する事例があり、カメラマン対策に注力していく。
- ・コアジサジは日野川河口と天神川河口、淀江漁港付近に利用実績があるが、昨年はその内の天神川河口と淀江漁港付近とで繁殖実績があった。
- ・県からは野生鳥獣生息調査やガン・カモ・ハクチョウ、カワウの調査を受託している。
- ・支部設立 30 周年記念誌を 2024/3 に発行した。

→ 湯梨浜町東郷池のクリスマス花火の中止要望書や大山ますみず高原の花火の意見確認書を提出されたとのことであるが、結果は？ [広島県) 茶村支部長]

→ 東郷池の花火は 10 年近く継続されており、打ち上げられた。ますみず高原の花火はコロナが明けて再開のタイミングで意見書の提示を求められたが中止を要望するまでの根拠が見つからず、花火は打ち上げられた。[鳥取県) 津森理事]

→ バリアフリー探鳥会についてはどのような配慮をされたのか？ [鳥根県) 川上支部長]

→ 視覚障害者の方が参加されるので、各障害者に専属のボランティア参加者が 1 名と探鳥会スタッフが数名付き添っている。[鳥取県) 吉田支部長]

→ 視覚障害者支援総合センターや視覚障害者福祉団体等と共催であり、支部単独の開催ではない。[鳥取県) 津森理事]

→ バリアフリー探鳥会の参加者の反応は？ [山口県) 原田支部長]

→ 視覚障害者の方もボランティア参加者の方からも好評。支部としても今後は車椅子の方とか対象を拡大して本格的に検討を始めた。[鳥取県) 津森理事]

→ 今回は倉吉での開催であったが、例年は(旧)下山キャンプ場で開催されていたが(新)モンベル大山 キャンプサイトが変わって使えなくなったということか？ [岡山県) 渡辺幹事]

→ モンベルが管理しているが、事前に話をしておけば一般の探鳥会にも使えるしバリアフリー探鳥会も環境としては使えると思う。[鳥取県) 津森理事]

◎愛媛 [愛媛) 松田代表]

- ・全てではないが eBird とバードリサーチのフィールドノートに入力している。
- ・会報の配送について、次回から JP ゆうメール特約に変更する予定。
- ・HP については、海外在住の役員が更新している。
- ・西予市宇和町のツル(コウノトリ)については西予市役所と地域団体と協働でねぐらと採食場の保全活動を行っている。また、地域団体と愛媛大学社会共創学部とで落穂と二番穂量の調査や環境選択の調査を行っている。
- ・鹿野川ダム周辺のブッポウソウは約 90 個巣箱を設

置した中で 53 つがい繁殖。50 つがいを超えたところで公開しようと考えていたので、来期より公開に向けて動き出す予定。

- ・コアジサジは松山衛生 eco センター(汚水処理場)の空き地を利用してハード面は eco センター、ソフト面は支部という役割分担で進めている。産卵するが今期はヘビ類に捕食された。
- ・重信川河口のシロチドリは県に相談して、繁殖域をロープと杭で囲った。
- ・創立 50 周年記念祝賀会を 8/4 に実施。財団本部の上田会長をお招きし記念講演をしていただいた。会報誌コマドリの付録として記念誌を発行予定。
- ・重信川河口鳥類調査報告書を 2023 年 9 月 25 日に発行。中国・四国ブロック各支部には送付済み。
- ・愛媛県鳥類目録を今秋頃に発行予定
- ・探鳥会リーダーへの報酬はなし。探鳥会に係る経費も支部としては特に負担していない。

→ 説明の中で、ブッポウソウの巣箱がムササビにやられるという表現があったが、巣箱が乗っ取られるということか、或いはヒナや卵が捕食されるということか？ [鳥取県) 田中副支部長]

→ ブッポウソウが巣箱を利用する前にムササビに乗っ取られたということ。[愛媛) 松田代表]

→ ムササビは草食動物なのでヒナや卵を捕食することはない。[普及室) 深澤氏]

◎岡山県支部 [岡山県) 丸山支部長]

- ・総会員数 517 名、会員数 407 名(2024/6)高齢による退会者が多く、新規入会者は減少している。
- ・会費の納入期限切れによる退会を防ぐために、財団本部からの「会員継続のお願い」とは別に、支部独自で「会員継続のお願い」を郵送している。効果は明確ではないが、そのまま退会される方は減少傾向にあると思われる。このような方法も有効か。
- ・2027 年に支部創立 50 周年を迎えるにあたって、鳥類図鑑「岡山の野鳥(仮称)」の発行を予定しており、地元出版社と調整するなど準備を進めている。
- ・吉備中央町と岡山市のブッポウソウの巣箱は 96 / 130 個が利用され、257 羽が巣立ったものと推測される。
- ・その他地域のブッポウソウの巣箱は 67 / 80 個が利用され、200 羽が巣立ったものと推測される。
- ・NTT の電柱のみならず、単管パイプを立ててブッポウソウの巣箱を架けているがヘビに襲われる危険性が高いことが判明し、試験的にヘビ返しを設置したところ効果あり。
- ・支部報の配送について、7 月号から JP ゆうメール特約に変更した。11 月号からは印刷業者を変えてフルカラーに移行する予定。
- ・GW 明けに野鳥写真展を開催し、6 日間で 352 名の入場あり。
- ・岡山大学理学部生物学科が 2 ~ 3 回 / 年観察会や小学校・公民館などの探鳥会をサポートして

いる。

- 「岡山の野鳥(仮称)」出版の費用はどのように手当てされるのか？ また一般販売されるのか？[広島県) 茶村支部長]
- 支部の基金の中から出資。¥2,500/冊で販売する予定。会員価格は×0.8 で考えている。[岡山県) 丸山支部長]
- 探鳥会の支部の費用負担についてお尋ねしたい。[徳島県) 東條支部長]
- 基本、支部は費用負担していないが、例外として出発点から 50km 以上の遠方での探鳥会開催については交通費のみ支部が負担している。[岡山県) 丸山支部長]
- ブッポウソウの巣箱に以外の野鳥やムササビなどは利用していないか？ [山口県) 原田支部長]
- ムササビが利用したケースが 1 件あり。他はスズメやシジュウカラの争奪戦。[岡山県) 丸山支部長]

◎山口県支部 [山口県) 事務局長 白石]

- 正会員数 238 名(2024/3/31)微減ではあるが会員数の減少に歯止めがかからない。
- 正会員の年齢構成を分析すると 60~70 歳代が全体の 58% を占めており、最高齢 99 歳と高齢化。
- 入会理由や退会理由の情報が充実すると次のアクションに繋がり易い。
- 支部公式 HP を開設して 2 年が経過。訪問者数は平均 48 名/日/2022 年度から平均 72 名/日/2024 年度と 1.5 倍。ここ半年は 2,000 件/日を超えるアクセスが散見される。健全なアクセスではないが手の打ちようがない。
- 探鳥会リーダーへの支部からの報酬はなし。探鳥会に係る経費(駐車場利用の手土産代等)は支部に請求できる。ただ探鳥会の資料作成等については自己負担している現状。入園料等も参加者同様にリーダーも自己負担。
- ブッポウソウについては担当幹事が独立して「ブッポウソウを見守る会」を立ち上げた。支部としては見守るが県などとの連携は今後も継続していく。
- 山口湾のラムサール条約登録に向けて市と県に働きかけているが、市担当者の動きが悪く、市長へ要望書を提出した。現状は特別保護地区の設定で足踏み状態。2026/10? 環境省の認定制度の申請に間に合わせたい。
- 支部長の原田氏が環境大臣より「令和 6 年度地域環境保全功労者」として表彰された。永年の鳥類の調査や保護活動への取り組みが評価。支部会員のご協力あっての受賞とのこと、支部報 8 月号に掲載済み。
- 支部創立 60 周年(2025/5/9)を迎えるにあたって、記念誌の発刊を計画。表題は「山口県の野鳥 2025」、価格は ¥2,000、内容は「山口県で撮影された野鳥の写真+山口県の探鳥地案内+山口県産鳥類目録」、A4 判縦フルカラー 180 頁、2025/4 一般販売の予定であり、是非ご購入いただきたい。

- 他の支部を含めて学生会員の会費を半額にするという考えは？ 財団本部では？ [広島県) 茶村支部長]
- 当支部では半額にするという考えはない。[山口県) 原田支部長]
- 本部会費には既にコース割引があり 22 歳以下は半額。現状、支部会費も同様に割引するような仕組みはない。[総務室) 森チーフ]
- 以前、支部長会議の場で議論されたと思うが、支部会費を 2 段階に設定できるように要望した場合、財団本部として検討していただけるのか否か伺いたい。[広島県) 日比野幹事]
- 支部会費を 2 段階に設定して欲しいという要望はブロック内各支部の総意と考えて良いのか？ [総務室) 森チーフ]
- 会費を半額にすると支部の収入が減るのでやるか否かは慎重に検討する必要があるが、仕組みは検討していただきたい。[島根県) 川上支部長]

(3)財団事務局からの報告

◎2024 年度「ツバメの子育て応援事業」ご報告とお願い [普及室) 井上氏]

- ツバメの巣を暖かく見守っている団体に感謝状を贈呈。
- 2024 年度は 19 支部から情報提供があり、31 団体/20 都道府県に感謝状を贈呈。
- ブロック内では鳥取県支部、広島県支部、香川県支部、愛媛が該当。
- 鳥取県支部は湯梨浜町立東郷小学校。ツバメの巣の構内マップを作成。結果として 20 か所以上の巣を発見。
- 広島県支部は(株)久保アグリファーム。事務所の蛍光灯の上に巣作り。窓を開けてツバメの出入りを促す。
- 香川県支部は(社福)守里会 初音保育所。巣作り用の台座を作成。先生や児童たちが大切に見守っている。
- 愛媛は松山認定こども園 星岡、八幡浜市立神山小学校、武市さん夫妻(農家)。農家の納屋には 29 個の巣。
- 感謝状の贈呈先は団体が基本。情報発信してツバメの見守り意識を広げていきたいという本事業の目的に反するので個人は対象から外している。ただし、武市さん夫妻は団体扱いとした。迷った場合は要相談。
- 全国で取り上げられたマスコミは新聞・広報誌 19 紙、テレビ 6 社。
- 2025 年度も事業を継続するので、ご参加いただきたい。

(4)検討テーマについて

- ※実際の会議では、効率良く進めるために支部毎に各テーマについて発表としたが、本議事録ではテーマ毎にまとめた。

【自然環境保全に関するもの】

I. 風力発電や太陽光発電施設計画の現状と各支部の対応

発電の背景

：徳島県では奥山の2件の風発は中止されたが、その後もボツボツと新たな計画が出ている。参考になる 対応等を教えていただきたい。[徳島県] 東條支部長]

◎徳島県支部 [徳島県] 東條支部長]

- ・進行中の計画として「美波町沖洋上風力発電事業計画」と「徳島鳴門風力発電事業計画」がある。
- ・「徳島鳴門風力発電事業計画」についてはタカの渡りルートに該当するので財団本部との連名で計画反対の意見書を提出。

◎高知支部 [高知] 西村支部長]

- ・県内の風力発電計画(アセス手続き中の事業)は5件。
- ・「国見山周辺における風力発電事業」に関しては、クマタカの営業地に近い風車2基を取っ払うことに成功した。
- ・(支部長自身が)高知県環境影響評価技術審査会に委員として参画していることから、支部として意見することは無い。
- ・風力発電では弱風時には回らないように、カットインの風速を上げること、弱風時のフェザリングを実施するように要請している。
- ・太陽光発電は山間部に設置されることが多く、事前には情報が入ってこない。

◎島根県支部 [島根県] 川上支部長]

- ・「島根風力発電事業」に対する意見書を財団本部と連名で提出した。また、県知事と浜田市長へ要望書(意見書を添付)を提出した。
- ・昨日、室内探鳥会を開催し、WWF ジャパンをお招きして意見交換を実施。県内で風力発電計画はいくつかあったが中止になった事例としては災害の懸念がある場合。生物的な理由よりも人的災害を強調した働きかけが有効ではないかという意見があった。
- ・前支部長が積極的にいくつもの計画中止の要望書を提出してきたが、鳥関係の理由では受け入れられることはなく、提出するタイミングでは既に計画が決まっているのではないかとも思う。

◎広島県支部 [広島県] 茶村支部長]

- ・風力発電計画は2件の内、1件は計画中止。もう1件は資材高騰の理由で計画を中断している。

◎香川県支部 [香川県] 大川事務局長]

- ・県内に風力発電の計画はなし。
- ・太陽光発電の計画では殆ど情報が入ってこないの、知らない内に大きな池がどんどんと潰されている。頭打ちになってきたようではあるが、これ以上池が潰されることに対して手の打ちようがない状況。

◎鳥取県支部 [鳥取県] 吉田支部長]

- ・風力発電計画について、2007年頃に始まった計画

は要望書を提出して取り止めになったケースがあるが、昨今の複数の計画に関しては支部が要望書を提出するケースはない。

◎愛媛 [愛媛] 松田代表]

- ・小型の風車はぼちぼち増えてきている。
- ・瀬戸ウインドヒル発電所は施設更新で撤去中。

◎岡山県支部 [岡山県] 丸山支部長]

- ・風力発電と太陽光発電と合わせて3つの大規模な事業が計画されている。
- ・「笠岡湾干拓 太陽光発電施設誘致計画」について、野鳥(カモやシギ・チ)の宝庫である寺間遊水池への水上太陽光発電計画が 2023/4 に浮上。笠岡市旧市長との面談で反対を表明してきたが平行線。今年4月に初当選した新市長は「事業者が地元住民と関係者の理解を得ることが必須」と答弁しており、支部としては新市長の任期中に探鳥会などを通じて笠岡市民に対する啓蒙活動を行う。この干拓地は農水省の管轄であり、中四国農水局に訪問の上、絶対に許可を出さないように依頼済み。計画は中止になるものと考えている。
- ・「鏡野町 風力発電所建設計画」について、ブナ林や清流があり県内でも自然豊かな場所への計画であり、日本イヌワシ研究会と財団本部との三者連名で意見書を提出した。地元住民からも「鏡野風力発電を考える会」が発足されて建設反対の署名運動を行い、今年2月に町長および県知事へ要望書を提出した。今後の成り行きは不透明。
- ・「津山市五輪原 風力発電所建設計画」については、イヌワシの棲息地である標高1,000mの高原への建設計画であり、2008年に発電機32基の計画が持ち上がったが、準備書に対する知事意見(2010/8)で計画が中止になったものと認識していた。その後、何の前触れもなく2021/10から16基に規模を縮小して工事が開始された。しかし、銅の値上がりで資金繰りがうまくいっていないようで、計画では今年6月稼働となっているが風車は建設されておらず、工事が中断されている。

◎山口県支部 [山口県] 原田支部長]

- ・風力発電と太陽光発電とで9件計画されている。
- ・永く反対運動にあっている計画もあるが、最近では既存の風力発電を中止して事業者が変わり、風車の大型化に伴い基数は減ったものの面積が1.5倍に広がるケースあり。事前調査をしっかりとやって、猛禽類の繁殖に引っ掛かったりすると要望書を出したりするといった状況。
- ・支部としては基本的に計画には中立的な立場をとっている。県からは業者ヒヤリングということで、支部長と保護部長を兼務している自分のところへ話ぐる。生息データがあれば計画中止を提言するが、ない場合には調査の結果を踏まえて色々要望していく。業者が県へ相談を持ちかけると、きらら浜自然観察公園の園長でもあるので場所を提供し、きらら浜で県と業者と打ち合わせするという構図になってきている。
- ・下関北九州道路、通称「第二関門橋」が関門国道トンネルと関門橋とが通行止めになった場合の代替

輸送路として計画が進んでいる。この度、三つあったルート案から最終的な建設予定ルートが採択された。関門海峡のヒヨドリの渡りルートに被る形となり、事前に意見を述べたものの結果としてはヒヨドリにとっては最悪のルートとなってしまった。バードストライクとかには防御フェンスをかなり使って防止するというにはなっているが、実際には作ってみたいとどのような対策が有効かはわからない。

【会員増強に関するもの】

II. 探鳥会における各支部の対応状況

発案の背景

：探鳥会にも色々な側面があり、それぞれに支部によって異なる対応がありそれは他支部の参考になると考える。また、ブロック会議の2週間後に対面で行われる探鳥会リーダーズフォーラムでは、探鳥会リーダーの育成や探鳥会参加者を入会に繋げるための施策などが議論されることになっており、ブロック内の他支部の事例・対応を事前に理解しておくことは有意義と考える。[岡山県)古田幹事]

※事前に探鳥会アンケート結果を配付しており Q & A を中心に進めた。

◎ 島根県、徳島県、高知各支部は探鳥会では何も資料を配付していないということか？[岡山県)古田幹事]

→ 初心者向けには「簡易図鑑」を配付するが、それ以外には配付していない。[島根県)川上支部長]

→ 吉野川河口探鳥会と出島探鳥会では資料を渡しているがそれ以外の探鳥会では特に配付していない。[徳島県)高井普及編集部長]

→ 探鳥会では資料は何も配付していない。[高知)西村支部長]

→ 鳥合せはチェックリストを使うと思うがどのように対応されているのか？[岡山県)古田幹事]

→ 探鳥会リーダーによって様々であるが、図鑑を使ったり、確認できた鳥の順に読み上げたりして鳥合せをしている。[高知)西村支部長]

→ 探鳥会リーダーが出現鳥名を読み上げ、参加者が追加することで対応している。[島根県)川上支部長]

◎ 広島県、島根県、愛媛、香川県の各支部では初心者向け探鳥会を開催しているとのことであるが、初心者限定ではなくて一般探鳥会の中で初心者歓迎ということか？[岡山県)古田幹事]

→ 初心者向け探鳥会を2回/年開催している。探鳥会スタッフを8名以上集めて手厚くサポート。初参加の一般の方には入会案内パンフレットと支部報を渡して入会を促している。[広島県)茶村支部長]

→ 初心者向け探鳥会と銘打つと参加人数が多い。

お試し会員への入会も確実に案内している。[島根県)川上支部長]

→ 財団本部と共催しない初心者向け探鳥会があるということか？[岡山県)古田幹事]

→ 初心者向け探鳥会は全て財団本部と共催している。[島根県)川上支部長]

→ 共催していることが参加者の増加に繋がっているということか？[岡山県)古田幹事]

→ 共催というよりも、初心者と銘打つことで参加するハードルが下がっているという印象。[島根県)川上支部長]

→ 初心者向け探鳥会の案内を広く周知する方法とは？[岡山県)古田幹事]

→ 特に PR はしておらず HP による案内程度。初心者向け探鳥会に初参加という方が減少しているの、今後はどのように情報発信していくかが課題。[島根県)川上支部長]

→ 初心者探鳥会は財団本部とは共催していない。コロナ禍から新聞での広報を停止しており支部報のみでの開催案内。初心者という名前につられて会員の方が多く参加されている。新聞での広報が再開されれば本来参加して欲しい一般の初心者の方が期待できる、が現状は通常探鳥会とほぼ同様。[愛媛)松田代表]

→ 補足すると、初心者探鳥会には「自称初心者」の会員の参加が多い。コロナ前には市内で配布される無料広報誌にも掲載していたが、一般初心者の方の参加は難しい。初心者探鳥会の開催場所としては比較的能力類とかが近くで観易く、スコープを据えられるところを選定している。[愛媛)秋山事務局長]

→ 補足すると、財団本部と各支部との共催で初心者向け探鳥会を開催する場合には独特の告知方法がある。財団本部では一般の方の10万件の名簿をデータベースで管理している。共催とした場合にはこの10万件の一般の方に告知するところが特徴であり、支部単独開催との違い。一般の方へはメールで直接案内するので関心がある方の反応が強い。地域によっては一般の方で興味のある方が集まってくるという探鳥会の開催が可能。しかし、地域によっては名簿への登録数が少ないと効果が上がらない。これを解消するための方法として、「おさんぼ鳥図鑑」無料プレゼントの申込みはがきを大量に配付する用意がある。県内の博物館とか人が集まる場所に置いて、興味のある一般の方に申し込んでいただきデータベースに蓄積されていく。1~2年経つと大きな告知効果を示してくることから各支部の皆さんに提案している。[普及室)箱田室長代理]

→ 岡山県内での名簿の件数を教えていただけませんか？[岡山県)古田幹事]

→ ブロック内各支部の名簿の件数を一覧にして、後日回答する。[普及室)江面チーフ]

→ 岡山県支部では HP や探鳥会で無料小冊子を PR している。[岡山県)古田幹事]

→ これをいかに一般の方に届けるかというところがミソ。多くの会員が参加する探鳥会で配付してもなかなか効果が上がらないので注意が必要。〔普及室）箱田室長代理〕

◎ 背の低いお子さんが参加された場合の対応として、三脚の脚を縮めるとか、踏み台を用いるとか、傾斜型のスコープを使うとか高倍率のコンパクトズームの液晶画面を見せるとか、スコープにスマホを付けて観せるとか、工夫されている支部はないか？〔岡山県）古田幹事〕

→ 子供が参加する場合には傾斜型のスコープがあった方が望ましい。高倍率ズームのコンパクトデジカメも電子望遠鏡と言って場所を特定するのによく使っている。〔山口県）原田支部長〕

→ コロナ禍の際に感染リスク回避の観点から、スコープではなくてビデオカメラを東部、中部、西部に1台ずつ配備して試行した。晴天下では液晶ディスプレイが見えづらいとか動き回る小鳥は捉えづらいとか課題はあるものの、水鳥観察には有効。スコープだとお子さんがどこを観ているのかわからないがビデオカメラの液晶だとお互いに確認できる。スコープとスマホの組み合わせも試してみた。慣れが必要だが1度やってみると面白い。〔鳥取県）津森理事〕

【支部体制に関するもの】

Ⅲ.調査活動に携わる人員の確保方法

発案の背景

：主に支部会員の高齢化が一番の要因であるが、たとえばガン・カモ調査ではこれまでの担当が引退すると、新たな調査員を配置できず、他地区担当者が兼務するような状況である。結果、複数の調査員の負担が過大となっている。また、遠方の山地の調査では、車の夜間運転や山歩きなどの体力面から調査員の配置に苦労している。調査員の発掘、育成に何か参考にするのであれば教えていただきたい。〔徳島県）東條支部長〕

◎徳島県支部〔徳島県）東條支部長〕

- ・現状としては令和5年度ガン・カモ調査73地点を27名で対応。遠方では50~70kmの調査地を一人で複数か所担当する状況になってきている。
- ・山野のモニタリング1000については、20年前には元気だった方が現在では70歳代となり3名で5地点を調査しているが、5年後はどうなっているのかが気になる。
- ・対応としては、これまで一本釣りであったが、今年度からは大口望遠鏡を支部が購入し、新規調査者に預託するようにした。

◎高知支部〔高知）西村支部長〕

- ・支部要員が少なく、以前より他団体や個人と連携して、ガン・カモ調査や鳥インフルエンザ関連調査、春秋のタカの渡り調査等に対応している。（高知野鳥の会や博物館、高知大学学生、野鳥愛好家等々）
- 支部会員以外の方は支部へ入会する意向は

ないのか？〔島根県）川上支部長〕

→ 支部会員と重複している場合もあるが、会員以外の場合も結構ある。鳥関連のネットワーク（人脈）をうまく使って頼んでいる。〔高知）西村支部長〕

→ 調査員へ調査を依頼する際に費用は発生するのか？〔山口県）原田支部長〕

→ 調査業務を県から支部が受託して、支部から調査員へ費用を支払っている。〔高知）西村支部長〕

◎島根県支部〔島根県）川上支部長〕

- ・調査員が不足しているという認識にはないので、特別な対応はとっていない。
- ・30~40歳代の探鳥会スタッフがおり、調査要員としてのバックアップ体制あり。
- ・今後、高齢化がさらに進むことを鑑みれば、逐次養成していく必要があり、調査員への同行を奨励することもありかと考えている。

◎広島県支部〔広島県）茶村支部長〕

- ・調査員は高齢化ではあるが、昨年度から40歳代2名の方が参加。

◎香川県支部〔香川県）大川事務局長〕

- ・他支部と同様にぎりぎりの状況。特にガン・カモ調査は人手がかかるので人手不足の状況。
- ・2~3年前からは会員に限らず、友達のつとかで志があって調査をお手伝いいただけるのであればと、一般の方にも参加をお願いしている。調査員にはガソリン代や弁当代は支給できているものの殆どボランティア。

◎鳥取県支部〔鳥取県）吉田支部長〕

- ・高齢化が進んでおり、後継者の確保は困難な状況。

◎愛媛〔愛媛）松田代表〕

- ・森林のモニタリング1000について前任者が対応できず、他の担当者が肩代わりして対応しているが、そのうちに破綻する時期がくるものと考えている。特効薬はないと思うので探鳥会に積極的に参加される方に声をかけていく。

◎岡山県支部〔岡山県）丸山支部長〕

- ・森林草原のモニタリング1000について、11サイトを1~2名/サイトで調査している。担当者や支部が後継者あるいは協力者の候補を選定、依頼し、2016年以降では6サイトで担当者が交替。その結果、5サイトで担当者が若返った。とはいえ、次期調査時に70歳を超える調査員が5名おり、継続した若返りが必要。
- ・環境省のガン・カモ調査は15か所/約50名で対応している。メールで参加者を募集し、徐々に新たな調査員が参加するようになってきている
- ・カワウ生息調査（冬ねぐら、初夏の繁殖コロニー）については、約30地点/約20名で対応している。日程と場所を提示してメールで参加者を募

集している。

- ・支部独自の調査(風力発電所建設計画地など)については、調査目的と調査日を告知して、集まったメンバーで調査している。メンバーは12~15名でほぼ固定している。

◎山口県支部〔山口県〕原田支部長

- ・ガン・カモ調査は44か所/14名、シギ・チドリ調査は20か所/10名、支部会員で対応している。
- ・カワウ調査も実施していたが、夜の調査は難しいという会員がおり調査できなくなりつつある。県としても予算がなく調査費が少ししか出せないという状況になり、予算に合わせて調査のボリューム(回数)を減らして欲しいとの由。そうすると過去の調査データとの比較ができなくなることから、県からのカワウの調査と鳥獣保護区の調査は受託を辞退した。

IV.支部役員の高齢化対策と、女性役員の登用増員発案の主旨

：他支部はどうやって対応しておられるか、お聞きしたい。〔鳥取県〕田中副支部長

◎徳島県支部〔徳島県〕東條支部長

- ・女性役員は5名/27名。カメラウーマンに期待しており写真展へ誘ったりしている。

◎高知支部〔高知〕西村支部長

- ・効果的な対策は打ち出せていない。頼めば色々とサポートして貰える状況ではある。

◎島根県支部〔島根県〕川上支部長

- ・高齢化や女性の役員登用については対応が必要という認識にはないので、特別な対応はとっていない。
- ・前事務局長が経験や性別、年齢に関わらず、意欲のある方に積極的に声をかけて勧誘した結果、役員の人材は確保できている。
- ・女性3名、男性11名の役員構成であるが、今後は男性偏重にならないよう女性役員の登用増について配慮していきたい。

◎広島県支部〔広島県〕茶村支部長

- ・自身を含めて役員は高齢化が進んでいる。20歳代の男女1名ずつが探鳥会リーダーを担当、40歳代の調査員2名を含めて来年度の役員に登用したく考えており、若返りが図れつつある。

◎香川県支部〔香川県〕大川事務局長

- ・極めて厳しい状況で、全く先が見えていない。趣味が多様化しているのか、鳥を観る方が少なくなる一方で鳥の撮影をする方が増えてきている。そういう方は撮影には熱心だが、人のお世話をするとか純粋に鳥を見つめるとかする方が少なくなっている。

◎鳥取県支部〔鳥取県〕吉田支部長

- ・理事が毎年留任しているので高齢化が進んでい

る。今年は女性役員が1名退任。

◎愛媛〔愛媛〕松田代表

- ・年齢や性別にこだわらず、若い方にも声を掛けている。
- ・今年度から2名の役員が新規就任。1名は男性でもう1名は女性で高校生。
- ・前任の代表が役員の人数を絞った経緯があり、現状は役員が足りている状況ではないので少しずつ増やしており、色々な年齢の方や性別の方に積極的に声を掛けようと考えている。

◎岡山県支部〔岡山県〕丸山支部長

- ・高齢化対策について、2014年からの10年間に50歳代3名(男性1名、女性2名)、60歳代4名(全員男性)が役員に就任した。探鳥会や調査、巣箱掃除などに参加する会員に声を掛ける方針。
- ・女性役員について、有望な女性会員もいるが、有望な人ほどすでに他のボランティアに参加していることが多く、引き受けてもらうのは困難。仲の良い女性二人にお願いしたり、女性役員からお願いするのがよいかも知れない。いずれにしても、家族の理解も必要であるため簡単ではない。

◎山口県支部〔山口県〕原田支部長

- ・役員の高齢構成としては60歳代と70歳代とで全体の63%を占めている状況。
- ・女性役員3名の内、2名はきらら浜自然観察公園のレンジャー。
- ・役員になりたいと手を挙げる人はまずいない。役員交代は難しい課題であるがこのままにしておく訳にもいけないので色々と考えているところ。

(5)次回ブロック交流会(会議)について

- ・来年11月上旬頃に阿南市を会場として対面でのブロック交流会の開催を考えている。探鳥会としては出島野鳥園を始めとして、徳島県蒲生田(かもだ)岬や鳴門では遅い夕方の渡りが時期でもあるのでご案内したい。次回、ブロック交流会として対面で行うことについてはどうか？
 - 異存はない。〔高知〕西村支部長
 - 異存はない。〔愛媛〕松田代表
 - 異存はない。〔岡山県〕丸山支部長
 - 是非、対面をお願いしたい。〔香川県〕大川事務局長
 - 久しぶりに対面での開催、楽しみにしている。〔山口県〕原田支部長
 - 異存はない。〔広島県〕茶村支部長

(6)閉会宣言・挨拶〔山口県〕原田支部長

以上

(日本野鳥の会山口県支部)

◆事務局からのお知らせなど

■自然保護より

■チュウヒサミット 2024 開催のお知らせ

日本野鳥の会愛知県支部と日本野鳥の会三重は、日本におけるチュウヒの生息状況を把握するために、チュウヒサミット 2006・2008・2010・2017 を開催しました。これまでのサミットでは、全国のチュウヒの繁殖状況を報告するとともに全国での繁殖つがい数を推定するなどし、環境省の希少種保全策に影響を与えてきました。

しかし私たちは、現在もチュウヒは開発行為等により繁殖阻害などの影響を受け、個体数が減少していると考えています。今回のサミットでは北海道や本州のチュウヒの繁殖状況や個体数などの最新情報を共有し、今後の保護施策について議論する予定です。

日 時：2024 年 11 月 16 日(土) 13:00～17:00
場 所：愛知学院大学 名城公園キャンパス
キャッスルホール 1202 号室
主 催：日本野鳥の会愛知県支部 日本野鳥の会三重
共 催：公益財団法人日本野鳥の会
その他：参加費無料・事前登録不要

※チュウヒサミット 2024 について詳しくは、こちらをご覧ください↓

<https://miebird.main.jp/2/index.php/ja/harrier-summit>

※過去のチュウヒサミットの様子はこちらから ↓

https://www.wbsj.org/activity/conservation/endangered-species/cs_hog/cs_summit_top/

(自然保護室／浦 達也)

■総務室より

■会員数

9 月 2 日時点の会員数は 33,309 人で、先月と比べ 10 人減少しました。

8 月の入会・退会者数(表 1)をみますと、入会者数は退会者数より 22 人多くなっています。

8 月 1 日付の入会者数は 151 人で、前年同月の入会者数 104 人と比べ 47 人増加しました。

また、8 月末日付の退会者数は 129 人で、前年同月の退会者数 125 人と比べ 4 人増加しました。

なお、会員の増減は入会者数と退会者数のほかに、会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活した人数によって決まります。

表1. 8 月の入会・退会者数

	入会者数	退会者数
個人特別会員	8 人	4 人

総合会員(おおぞら会員)	22 人	29 人
本部型会員(青い鳥会員)	27 人	26 人
支部型会員(赤い鳥会員)	71 人	52 人
家族会員	23 人	18 人
合計	151 人	129 人
年度累計	981 人	※

※会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活の方がいらっしゃるため、退会者数の年度累計は、実際の退会者数とずれた数字となります。

※上記集計は速報値になります。

●都道府県および支部別会員数

野鳥誌贈呈者数を除いた数を掲載します。

表2. 都道府県別の会員数(9 月 2 日時点)

都道府県	会員数	対前月差
北海道	1,568 人	1 人
青森県	204 人	-3 人
岩手県	334 人	-2 人
宮城県	506 人	-1 人
秋田県	233 人	-1 人
山形県	213 人	0 人
福島県	498 人	1 人
茨城県	843 人	-5 人
栃木県	810 人	-5 人
群馬県	577 人	-1 人
埼玉県	1,961 人	1 人
千葉県	1,474 人	0 人
東京都	4,654 人	1 人
神奈川県	3,110 人	3 人
新潟県	340 人	0 人
富山県	182 人	0 人
石川県	264 人	2 人
福井県	224 人	0 人
山梨県	242 人	-2 人
長野県	823 人	2 人
岐阜県	463 人	5 人
静岡県	1,205 人	-1 人
愛知県	1,587 人	1 人
三重県	443 人	0 人
滋賀県	326 人	-1 人
京都府	804 人	1 人
大阪府	1,893 人	7 人
兵庫県	1,224 人	-7 人
奈良県	466 人	1 人
和歌山県	203 人	-1 人
鳥取県	224 人	1 人
島根県	194 人	-3 人
岡山県	537 人	2 人
広島県	573 人	1 人
山口県	313 人	1 人
徳島県	322 人	-4 人
香川県	215 人	-1 人

愛媛県	335 人	0 人
高知県	97 人	-1 人
福岡県	1,158 人	2 人
佐賀県	216 人	0 人
長崎県	202 人	-1 人
熊本県	352 人	2 人
大分県	220 人	0 人
宮崎県	246 人	-2 人
鹿児島県	304 人	-4 人
沖縄県	80 人	1 人
海外	14 人	0 人
不明	33 人	0 人
全国	33,309 人	-10 人

備考：不明は転居先が不明の会員を示します。

表3. 支部別の会員数（9月2日時点）

支部	会員数	対前月差
才ホーツク支部	238 人	3 人
根室支部	72 人	0 人
釧路支部	132 人	0 人
十勝支部	197 人	2 人
旭川支部	89 人	0 人
滝川支部	38 人	0 人
道北支部	24 人	0 人
札幌支部	295 人	-2 人
小樽支部	51 人	0 人
苫小牧支部	166 人	0 人
室蘭支部	113 人	0 人
道南檜山	72 人	1 人
青森県支部	113 人	0 人
弘前支部	110 人	0 人
秋田県支部	225 人	-1 人
山形県支部	208 人	-1 人
宮古支部	72 人	0 人
もりおか	148 人	0 人
北上支部	89 人	0 人
宮城県支部	471 人	-3 人
ふくしま	121 人	-1 人
郡山支部	141 人	0 人
白河支部	17 人	0 人
会津支部	53 人	0 人
奥会津連合	7 人	1 人
いわぎ支部	91 人	0 人
福島県相双支部	13 人	0 人
南相馬	17 人	0 人
茨城県	755 人	-2 人
栃木県支部	813 人	-4 人
群馬	518 人	-2 人
吾妻	41 人	0 人
埼玉	1,456 人	-3 人
千葉県	903 人	3 人
東京	2,653 人	-4 人
奥多摩支部	761 人	3 人
神奈川支部	1,983 人	-5 人

新潟県	260 人	-2 人
佐渡支部	38 人	0 人
富山	164 人	1 人
石川	242 人	2 人
福井県	216 人	0 人
長野支部	382 人	-1 人
軽井沢支部	161 人	0 人
諏訪支部	239 人	0 人
木曾支部	20 人	0 人
伊那谷支部	76 人	1 人
甲府支部	178 人	-1 人
富士山麓支部	51 人	0 人
東富士	58 人	-1 人
沼津支部	132 人	0 人
南富士支部	217 人	2 人
南伊豆	39 人	0 人
静岡支部	308 人	0 人
遠江	352 人	0 人
愛知県支部	1,229 人	5 人
岐阜	440 人	3 人
三重	387 人	3 人
奈良支部	395 人	0 人
和歌山県支部	208 人	-1 人
滋賀	322 人	-1 人
京都支部	757 人	6 人
大阪支部	1,742 人	8 人
ひょうご	935 人	-6 人
鳥取県支部	237 人	1 人
島根県支部	190 人	-2 人
岡山県支部	517 人	3 人
広島県支部	500 人	1 人
山口県支部	290 人	2 人
香川県支部	177 人	0 人
徳島県支部	343 人	-4 人
高知支部	91 人	-1 人
愛媛	313 人	0 人
北九州支部	232 人	2 人
福岡支部	524 人	3 人
筑豊支部	210 人	-1 人
筑後支部	135 人	0 人
佐賀県支部	280 人	0 人
長崎県支部	186 人	-1 人
熊本県支部	342 人	1 人
大分県支部	206 人	1 人
宮崎県支部	239 人	-1 人
かごしま県支部	285 人	-4 人
やんばる支部	41 人	0 人
西表支部	52 人	2 人
	28,204 人	5 人

備考：支部別の会員数の合計は、都道府県別の会員数の合計と異なります。

これは、本部型（青い鳥）会員や支部に所属されていない個人特別会員が支部別の会員数に含まれないためです。

◆支部ネット担当より

いつも支部ネット通信をご愛読いただきありがとうございます。

支部ネット通信では、支部やブロックから全国の支部・ブロックへ発信したい情報をご投稿いただいて掲載することができます。投稿にあたって特に字数の制限などは設けていません。できるだけ弾力的に対応させていただきます。原稿は毎月5日頃が締め切りで、25日頃に発行となります。ご投稿は下記アドレスまでどうぞ。

まだまだ暑い日が続いていますが、少しずつ日も短くなり、秋の虫の声も聞こえるようになってきました。引き続きお元気にお過ごしください。次号もどうぞよろしくお願いたします。

日本野鳥の会

支部ネット通信

2024年9月号・通巻272号

◆発行

公益財団法人日本野鳥の会 2024年9月25日

◆担当

総務室 総務管理グループ

五十嵐真/林山雅子/松井華奈/萩原洋平/原元奈津子
〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2620

FAX : 03-5436-2635

E-mail : sibu-net@wbsj.org